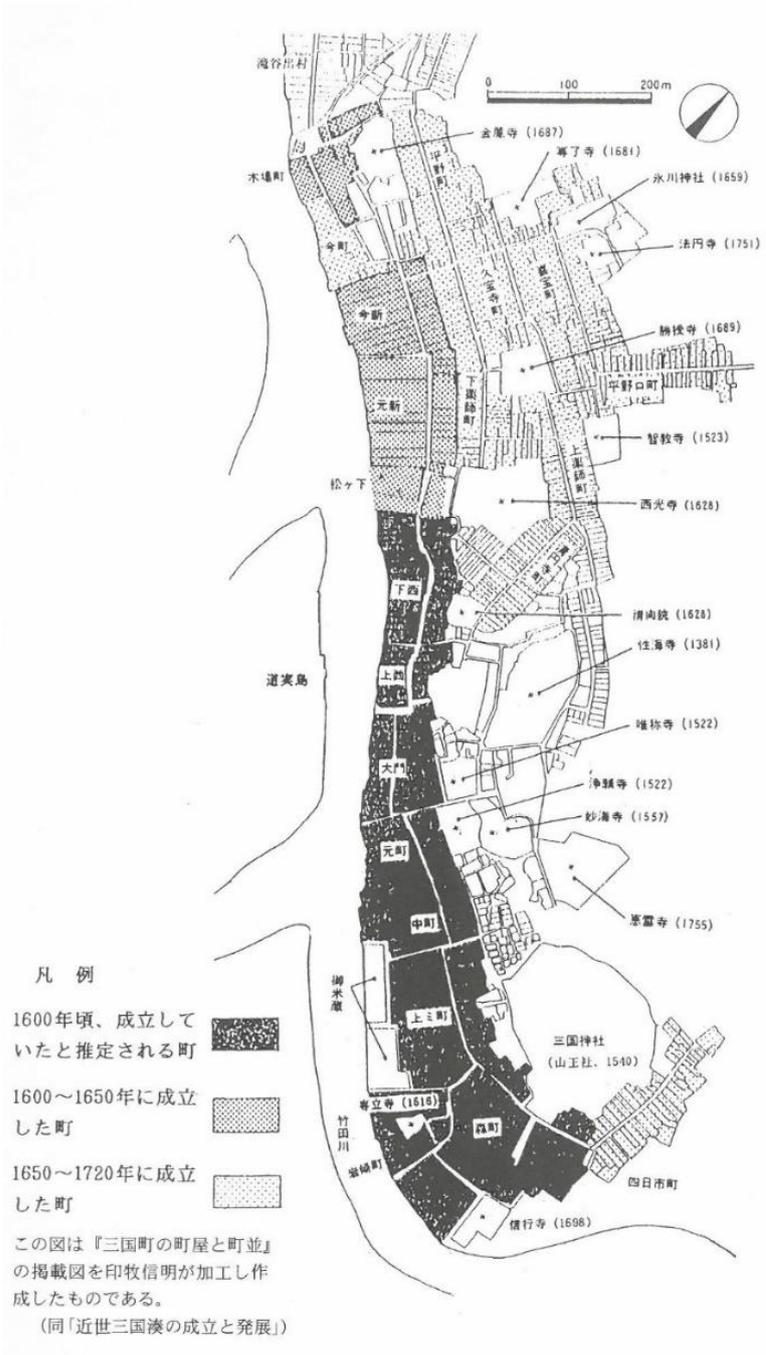


### 三国湊の発展

近世の三国湊は、初期の「三国」と、新たに開発された「新町」とに二大別される。初期の町「三国」は、17世紀中葉の正保期までに形成された町々で、「新町」はそれ以降新たに開発された町である。三国湊の政庁は正智院にあって、ここで問丸・庄屋が町役人として職務を掌った。藩の命令は金津奉行から問丸へ、さらに庄屋を通じて各町の町庄屋へ伝えられ、町庄屋が一般町民に伝達するのが普通だった。

問丸は、初めは問屋と同様、職業名であったが、これが後に役名になる。最初は5人の問丸が三国の事務を執ったようである。宝暦年間には3人となった。



近世三国湊の発展図 (『三国湊小史』より)

### 韃靼漂流記

江戸前期の寛永21年(1644)4月1日、三国浦新保村の竹内藤右衛門と子の藤蔵舟二艘・並びに国田兵右衛門一艘に58人が乗り組んで、松前(現北海道)貿易の目的を出帆したところ、佐渡沖で大風に遭遇、日本海を漂流し、韃靼国すなわちマンチュリアの清領内、現在のロシア領沿海州ポシエツ湾付近に漂流した。



韃靼漂流者供養塔  
(いずれも『三国湊小史』より、性海寺)



竹内藤右衛門の墓

### 森田家

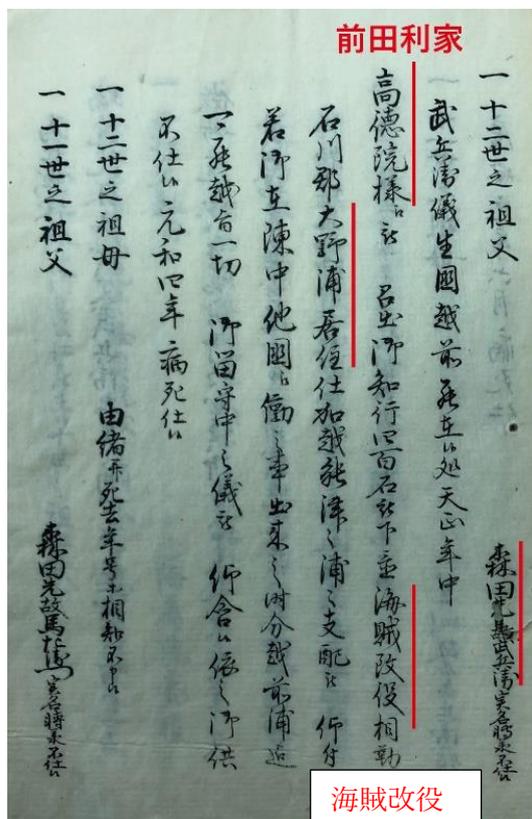
三国湊の豪商である森田家の先祖は、朝倉氏滅亡後に三国湊の有力商人として台頭した。信長・秀吉に協力して地位を確立し、兄は加賀藩の海賊取締方、舟奉行。弟は越前藩の三国湊の頭町人となり、奥羽～敦賀の海運に強い影響力を持った。

一族は戦国末期から元禄初期に至るまで問丸筆頭の地位を維持し、初期の町場の中心付近にある元町に屋敷を構え、古刹性海寺の大檀越でもあった。安土・桃山期の天正3年（1575）織田信長の越前一向一揆平定の際、森田三郎左衛門（道空）は問丸の立場から信長に忠誠を尽くし、同5年（1577）には能登に侵攻した上杉謙信の動向を海上から偵察し、信長支配下の豪商として活躍した。

江戸時代に入り、廻漕業を通じて北国領主との経済的結びつきが強くなった。寛永5年（1628）には二代目屋号衛門は問丸職の他に、船持仲間を支配する舟道、領主米や承認荷物を湊より廻漕する羽海船支配を勤め、港の自治や廻船業に対して絶大な影響力を保持した。



森田家住宅（『三国湊小史』より）



前田利家

一十二世之祖父

一 武兵衛儀生國越前在比起天山年中

高德院様

呂出河知行百石下至海賊改役相勤

石川郡大野浦君任仕加越能津浦支配

着河立陳中他國傷事出来時分越前浦迄

一 存越前一切 河田守中儀 仰合儀 儀

不仕元和四年病死

一十二世之祖母

由緒并死生年号相和

一十一世之祖父

森田先政萬馬 善勝東在

森田武兵衛 善勝東在

海賊改役



前田利常書状(串鮑・鯉到来礼状及び屋敷遣に付)：加賀藩3代藩主前田利常から海賊改方森田武兵衛への書状（越澤会長撮影）金沢市立玉川図書館所蔵

「先祖由緒并一類附帳」の「森田常太郎」：加賀藩の御算用場 『加能郷土辞彙』（越澤会長撮影）金沢市立玉川図書館所蔵

### 内田家

先祖内田十内（のち十兵衛）は朝倉氏に仕えた武士と伝えられる。江戸時代には福井城下祝町で酒商売と糶業を営んでいた。江戸中期の元禄16年（1703）惣右衛門の時、三国湊へ出店し、三国内田家の始祖となった。屋号を室屋と称し、元新町の川方へ店を構え、搗米屋と麴商を営んだ。二代惣右衛門の時、廻漕業を始め、五代惣右衛門の代に発展を遂げ、三国家と共に港の豪商に急成長した。

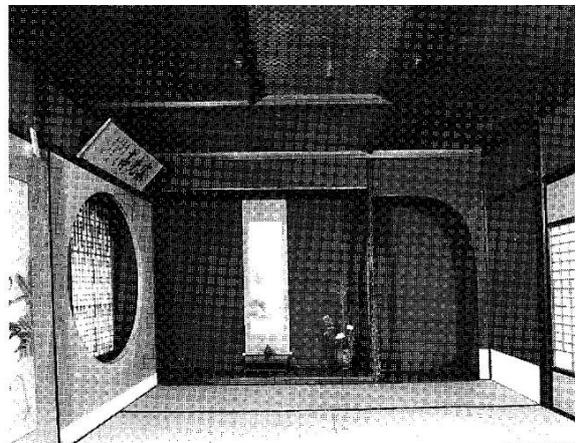
福井藩は内田家の経済的貢献に対して、知行や扶持を与えるとともに、五代惣右衛門は文化元年（1864）に年始御礼と門松を許され、苗字勝手として内田の姓を名乗るようになり、文政2年（1819）には金津奉行直支配となって帯刀が許されている。

### 宮本太吉家

宮本家は、宮腰屋太吉を名乗る廻船業者で、青森湊まで航行していたという記録がある（『三国湊小史』）。明治初年には旅籠屋宮多旅館を営んできた。『三国町の民家と町並み』でも建物としての価値が評価されている。



建物外観



蔵座敷の床の間

（いずれの写真も『三国町の民家と町並み』より）

### 山王祭

19世紀中葉頃に作られた「性海寺年中行事標要集」によれば、4月の申の日（旧暦4月20日）、三国湊惣社山王宮の祭礼が行われた。この日の前日、性海寺住職と伴僧二人は輿に乗って総勢18人で山王宮に出かけた。祭礼当日は、門前の石橋むかいの正面まで神輿の渡御があり、院代役僧のうち一人が出て法楽を行った。

### 三国の文化・文芸

近世に入ると、三国湊では町人が経済的に台頭し文化の担い手になった。江戸前期には、三国、新保、滝谷などで俳諧が隆盛した。江戸中期には、松尾芭蕉の高弟去来が三国に遊し、句を残している。

宝永4年、『日和山』が刊行されると、元文2年（1737）に金鳳寺境内に初雪塚を建立した。

三国町人、とりわけ商人の中で俳諧に親しむ者が増えていった。彼等の教養嗜みは遊び相手になった遊女たちに浸透し、遊女の中から優れた俳人が現れた。女流俳人と喧伝されている哥川である。通称を豊田屋ぎんといい、俳句を永正寺永言（巴浪）に師事した。代表句に「奥底のしれぬ寒さや海の音」がある。

近世の建築彫刻として、三國神社本殿向拝装飾が代表的な作品である。三国はまた車箆箆や船箆箆の産地として知られている。三国仏壇は京仏壇の系統に属する。

三国湊は積谷石の輸出港であり、密教寺院を中心に古い石造遺物が多い。積谷石は福井産地から足羽川・日野川・九頭竜川の水運を利用して川船で三国湊に運ばれ、当湊から日本海沿岸各地へ移出された。墓石の場合、越前独特の荘厳様式がこの石に託されて越前仏教文化として各地へ伝播した。

### 三国湊における丸岡藩領の茶屋町

越前藩が分割されて、丸岡藩が独立した後、三国湊の管理については、越前藩とされた。三国湊の大部分は越前藩領となり、一部分が丸岡藩領（茶屋町・三国遊郭）となった。三国遊郭は、日本海の中でも規模が大きく、その結果、文化作品や歌舞伎の舞台となっている。

三国遊郭の最高ランクの遊女を指す小女郎（島原では太夫）をめぐる物語がある。福井藩士の子である近松門左衛門が著名な台本を書き、これが、歌舞伎の著名な演目となった。元禄12年（1699年）近松門左衛門の作「けいせい仏の原」である。また、もう一つの著名な題材として、玉屋新兵衛と三国小女郎の物語がある。

### 観音院の門(坂井市指定文化財建造物)

坂井市春江町本堂にある観音院の場所は、江戸時代に福井藩領であった。本堂地区に伝わる伝承で、福井城内の建物を拝領したとされている。旧福井藩の諸文書による史実が未確認であるが、上質な門であるため、福井城の遺構である可能性が高い(『観音院の門』(吉田純一ほか、福井工業大学研究紀要、第34号、2004年)。

福井地震で一度倒壊し、その一部はすでに欠損したものの、主要部分を使って、平成15年(2003)に応急的に組み立て、収蔵庫内で保管されている。

観音院の門に関する学術的見解について、本計画では下記に益田委員の文責による報告書を掲載する。



蔵座敷の床の間

坂井市指定文化財「観音院の門」の復原修理活用の重要性 20231014益田兼房

1. 門の現状(坂井市春江町本堂1-30 八幡神社境内 倉庫内にて保管)

2023年9月29日午前に約30分間、坂井市のご案内で、越澤明歴まち協議会会長と益田兼房委員が、現地調査を行った。坂井市文化課資料の説明によれば、1948年福井地震で倒壊後に主要部材を神社境内倉庫で保管していたのを、2003年に組み立て補強された状態である。屋根材は無く、垂木や貝形柱など一部部材を失っているが、なお木造の主要各部材はほぼ全て残存しており、復原修理が可能な状況にある。

残存部材は、表面の風蝕状況などから、少なくとも二つの異なる時期からなる。全部材について慎重な分析考察を行い、文化財修理技術者による彩色を含めての質の高い復原修理と修理工事報告書刊行を行えば、県指定、もしくは国指定文化財の価値の回復が、可能な状況にある。



八幡神社境内の門収蔵倉庫外観



坂井市指定文化財「観音院の門」全景  
(左側貝形柱欠失)

2. 門の年代・特徴・価値など

門の由緒と年代は、坂井市文化課資料によれば、以下のようなものである。はじめ福井藩の東照宮は城の外、神明神社付近にあったが、寛文10年(1670)に福井城内北三の丸で再建された。この門の建築年代は江戸時代前期まで遡るのぼるので、再建された東照宮の平唐門の可能性があり、その後、廃藩置県後の明治5年(1872)頃以降に、松平家に関わりの深い本堂地区の観音院に移転した、とされる。

一般に、平唐門は古来高貴な邸宅や廟所に使われ、構造上2本の親柱で重い屋根を支えるため、前後に控えが必要である。屋根が大きいこの門では、左右両側に下幅で1m程の厚い見事な築地塀があったらしい斜めの貝形柱が付属し(左側欠失し支柱)、これが門の当初材である腕木とその上の海老虹梁三斗組、さらに軒桁を支えている。すなわち、残存部材からは、この門の当初の構成は、左右に立派な築地塀が想定され、高貴な屋敷か廟所の門であったと推察される。



また、部材は少なくとも二つの異なる時期からなるが、大半を構成する当初材は、建築様式上からは、腕木の絵様、頭貫木鼻の絵様の線の細いこと、海老虹梁の肩の雲紋の彫り方や、その下の花木彫物の様式などからは、江戸時代の寛文年間と言うよりむしろ、桃山時代早期の関西圏の意匠・気風を伝えていることが注目される。

今後の、福井藩初期の古文書の調査が不可欠であるが、京都辺の相当な施設(例えば豊臣秀吉が天正15年(1587)建設し、1595年に破却した聚楽第では、その北門は移築されて京都大徳寺方丈の唐門と伝え、国宝建造物)等からの移転も含めて、今後広く検討すべきと考えられる。

海老虹梁の肩の雲紋彫りは浅く緩やか

頭貫木鼻絵様渦線は細い



右側面：前後の貝形柱で腕木を支えて、深い軒の屋根を支える。

右側面の詳細：腕木の 絵様線は細く真円に近い。頭貫や肘木拳鼻の絵様線も同じく細い。

### 3. 門の復原修理の重要性と期待される活用効果

現状では、門は倉庫内で仮設の組立状況にあり、本堂地区で大切に部材保存をされてきたことに関係者のご尽力に深甚の敬意を表するものであるが、小規模地震での倒壊によるさらなる部材の損壊や、火災の危険性は排除できず、市指定文化財として早期の保存復原修理が望まれる。

その文化財的価値は、今後の福井城松平氏関係の文献調査や関西圏の建築類例様式比較調査などにより、年代や由緒など、坂井市や福井県内全体での歴史的建造物のなかでも、大いに評価が高まる可能性がある。大徳寺唐門と肘木曲線などは異なるが、関西圏の各地から優秀な大工が集合競争して造営した施設の一部の可能性は、今後の検討の中で明らかとなろう。

経験のある文化財建造物修理技術者の監督の下に、京都の重文建造物修理に関わる大工と彩色修理専門家による復原ができれば、一種の工芸品的な美しさは見違えるほど高まり、福井県の文化的魅力を対外的に観光客等に発信するシンボリック効果も発揮できると見られる。

復原修理後の保存活用の方法は、例えば坂井市の三国翔龍博物館の所蔵品として、これを観光上効果ある屋内に館外貸出展示することで、全国的な文化発信をすることも期待されよう。

### 越前萬歳

新春の雪の中、新年を言祝いで越前の家々をまわっていた、越前萬歳。昭和46年（1971）に記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財とされ、平成7年には国の重要無形民俗文化財に指定された。

越前萬歳は、かつては野大坪萬歳<sup>のおおつぼまんさい</sup>ともいわれたもので、新春の祝福芸の一つである。越前市上大坪地区や味真野地区で伝承されてきた。その起源については不明ながら、継体天皇にまつわる伝説などがある。江戸時代には、越前の各藩のほか、加賀藩、大聖寺藩でも演じられていた。

越前萬歳には歌詞が48段あるといわれてきた。人気の高い演目である「お早良<sup>はやりょう</sup>作<sup>さく</sup>」（注）については、坂井市長畑、旧北陸道に面した一里塚があつた場所に、道を挟み供養塔と地蔵堂が建立されている。



お早良作の地蔵堂

（注）加賀藩士と町家娘が身分の差を超えて駆け落ちし、当地で死去した。現在に至るまで当地区では慰霊を行っている。

### ④近代

#### ○明治時代以降

越前地域北部の全ての主要な河川は最終的に九頭竜川に合流し、三国湊から日本海に注がれる。そのため、三国湊には上流から運ばれてくる土砂が堆積し、それが長年の課題となっていた。土砂の堆積で港の水深が浅くなり、港湾としての機能が低下するため、三国の豪商らが県や政府に改修を求めた結果、明治9年（1876）にオランダ人技師 G. A. エッセルが派遣されることになった。エッセルが設計し、明治15年（1882）に完成した三国港（旧阪井港）突堤は、日本初の近代的な港湾修築工事の跡である。現在もその機能を果たしている貴重な国の重要文化財となっている。

明治新政府が道路の整備、鉄道の敷設を進めていくにつれ、船の往来に頼る三国湊の商業活動は減衰していった。大正時代に入ると、発動機船を導入した底曳網漁業がはじまり、三国港は商港から漁港へと転換していった。

戦国時代からの由緒を持つ豪商の森田家は、廻船業の衰退により、倉庫業・銀行業へと転業した。森田銀行は、加賀銀行（石川県）、勝山野村銀行を合併・買収するなど、福井県下有数の銀行へと発展した。

明治30年（1897）9月には、北陸線沿いの福井—小松間が開通し、市内に初めて鉄道が通った。地元の熱心な鉄道敷設運動の結果、明治44年（1911）には三国支線が開業、その後も大正4年（1915）には、北陸本線の新庄駅と丸岡市街を結ぶ丸岡鉄道が開業した。このほかにも、永平寺鉄道や三国芦原電鉄が開通し、大正時代から昭和時代の初めにかけて、市内における鉄道は全盛期を迎えた。こうした鉄道の広がりや、駅周辺の商店街の発達をもたらした。

明治20年（1887）頃から輸出向け絹織物である羽二重を織る織物工場が広がり始めた。明治42年（1909）10月には、江留上への送電工事が竣工し、急速に手織機から動力織りの力織機への転換が進んだ。さらに、同業組合による品質改善や新製品の試織の結果、大正時代の中頃に春江村の機業は最盛期を迎えた。

第2次世界大戦では、多くの人が命を落とし、市内各所には慰霊碑、忠魂碑が建てられている。終戦前の昭和19年（1944）には、疎開のため、詩人・三好達治が雄島村米ヶ脇（三国町米ヶ脇）に身を寄せた。昭和24年（1949）までの間、三好達治



旧島崎家住宅はなれ  
春江ちりめん会社である島崎織維創業者の自邸。

は地元の文学者や三好を訪ねてくる文学者たちと交流を深めた。

用水の取水口であった鳴鹿堰は、昭和 22 年に国営九頭竜川農業水利事業に採択され、8 年の歳月をかけて可動式のゲート 5 門を備えた鳴鹿堰堤として整備された。昭和 50 年代には災害への応急措置に関わる国の通達や水害の発生などを受け、九頭竜川水系工事实施基本計画が改定され、老朽化した旧鳴鹿堰堤の更新が課題として挙げられた。平成 2 年（1990 年）度から洪水時の流下能力を高める改築事業が着手され、平成 16 年（2004）に九頭竜川鳴鹿大堰として完成した。

昭和 23 年（1948）におこった丸岡町付近を震源地とした福井地震では、昭和 15 年（1940）～17 年（1942）に解体修理を行った丸岡城天守も倒壊した。城下周辺では、建物の倒壊のほか、地震による火災が発生し、鎮火に伴う浸水も含めて地域に残っていた資料類も被災した。市内の一部では、三国町など建物の倒壊を免れた地域もあった。倒壊した丸岡城天守は、昭和 26 年（1951）から約 4 年をかけて修理工事を終え、現在のような姿となっている。

昭和 41 年（1966）、春江町藤鷺塚に福井空港が開港したほか、道路の整備や、九頭竜川への架橋が進められ、交通体系の近代化が推し進められていった。こうした交通網の整備は、近代産業の発展の導火線にもなった。例えば、福井国体関連事業として国道 8 号のバイパス道路の整備が進められ、商業施設・飲食施設の立地が促進された。JR 北陸本線による輸送日数・コストの削減は、県内の輸出向け絹織物業の飛躍に拍車をかけた。北陸線上の金津・丸岡・森田・大土呂・鯖江などの駅周辺 3～4 km ほどの村々で新たな機業地が広がっていき、春江村の輸出向け羽二重機業がその典型である。

昭和 46 年（1971）、産業構造の改善と県民所得の向上を図るため、九頭竜川左岸の三里浜に臨海工業地帯の造成を計画し、港名を福井港と変更、港湾審議会第 46 回計画部会では「福井港港湾計画」が新たに承認された。その後約 20 年の歳月をかけて建設工事が行われつつ、昭和 53 年（1978）に共用が開始された。

平成 18 年（2006）には、坂井郡の三国町、丸岡町、春江町、坂井町の 4 町が合併し、人口規模で福井県下第 2 位の市となる本市が生まれた。



以前の鳴鹿堰堤  
(地域計画より転載)



現在の九頭竜川鳴鹿大堰

(2) 関わりのある人物

本多成重 元龜3年(1572)～正保4年(1647)

徳川氏の家臣・本多重次の長男。重次が妻に書き送ったとされる「一筆啓上、火の用心、お仙泣すな、馬肥やせ」という手紙は、簡潔に要点をとらえた模範的な手紙文として名高いが、この「お仙」(仙千代)が成重を指す。本多成重は、若年の越前藩主松平忠直の補佐のため松平家の附家老となり、慶長18年(1613)に丸岡城主となる。寛永元年(1624)越前藩が福井藩、大野藩、勝山藩、丸岡藩などに分かれ、丸岡藩4万6300石が立藩した。本多成重が初代丸岡藩主となり、丸岡城下の整備や新江用水の開削などに尽力した。



本多家歴代墓所 (市指定文化財)

住友政友 天正13年(1585)～慶安5年(1652)

日本の三大財閥(企業グループ)の1つ、住友グループの祖業は江戸時代の銅精錬(屋号は泉屋)である。住友家の初代(家祖)である住友政友は天正年間年(1585)、丸岡城下町で武士住友長行の次男として生まれた。当時の領主は丹羽長秀であり、丸岡城代は青山宗勝であった。住友政友は両親の希望で、12歳で京に上り僧となったが、還俗して町人として商い(出版、製薬、銅吹き)を興した。娘婿の2代目住友友以は京都から大坂に移り、家業を発展させ、大坂で最大の銅吹き所(銅精錬所)を経営し、貿易商、両替商も開始した。4代目住友友信は別子銅山を開発し、鉱業と金融を柱として全国でも有数の有力な商家に発展した。



東京福井県人会報 (H8.9.25) より

### 岸名昨囊<sup>さくのう</sup> 江戸中期

通称を惣助、屋号を新保屋と称した材木商であった。松尾芭蕉の門人各務支考は、全国各地を行脚して美濃派と呼ばれた俳風を普及させており、三国では岸名昨囊<sup>さくのう</sup>が支考の門人として美濃派の俳壇を樹立した。日和山の金鳳寺を拠点として日和山吟社を立ち上げ、初代宗匠となった。



日和山吟社の拠点となった金鳳寺

### 豊田屋哥川<sup>かせん</sup> 江戸中期

日本海屈指の北前船貿易の港として繁栄を極めた三国には、遠く江戸にも名を響かせる遊郭が営まれた。「家数三百七十、傾城八十五人、流行長谷川<sup>けいせい</sup>」という記録があり、高い教養や品格が謳われる遊女を多く抱えた滝谷出村の遊郭で、とりわけ評判が高かったのが荒屋町の泊瀬川（哥川）であった。永正寺巴浪に俳諧の手ほどきを受けたとされ、「奥そこのしれぬ寒さや海の音」などの句を残している。



哥川の句碑がある妙海寺

### 杉田定一 嘉永4年（1851）～昭和4年（1929）

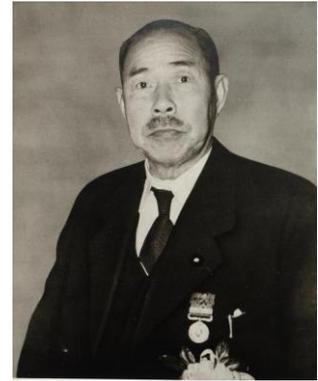
坂井郡鶉<sup>うずら</sup>村波寄（現福井市）の大庄屋杉田仙十郎の長男に生まれた。明治23年（1890）の第1回衆議院議員選挙に立憲自由党から立候補して当選し、途中1回の落選を挟んで第10回総選挙まで当選を続けた。福井県内では、明治29年（1896）に公布された旧河川法の第8条を適用して国事業として九頭竜川の治水事業を実施できるよう働きかけ、巨額の私財も投じて河川改修の実現に奔走した。そのほか、地租改正<sup>ちそ</sup>や絹織物業の発展、三国鉄道の敷設などに尽力し、本市の産業の発展と社会基盤の整備に多大な功績を残した。



杉田定一  
『杉田鶉山翁』より

酒井利雄 明治24年(1891)～昭和44年(1969)

鳴鹿村に生まれ、鳴鹿村長や福井県会議長、衆参議員などを務めた。農政や土木に精通し、鳴鹿堰堤の建設を行なった。また、永平寺鉄道の永平寺口・永平寺間(大正14年(1925))、永平寺口・金津間(昭和4年(1929))の開通などに尽力し、永平寺参詣者の利便性が大幅に改善された。



酒井利雄  
『酒井利雄伝』より

高見順 明治40年(1907)～昭和40年(1965)

三国町平野に、当時の福井県知事阪本<sup>さんのすけ</sup>之助の子として生まれる。長編小説「故旧忘れ得べき」が第一回芥川賞候補作となり、作家としての地位を確立した。晩年には、近代文学の資料の散逸を防ぐため、日本近代文学館の建設に尽力した。私生子として生まれた高見は三国を忌まわしい出生の地として長く帰ることはなかったが、徴兵検査のため、19歳のとき初めて三国を訪れている。「荒磯<sup>ありそ</sup>」という詩の冒頭では、故郷三国への思いを「おれは荒磯の生れなのだ」とうたっている。現在、荒磯遊歩道に自筆の字体で刻まれた詩碑がある。



高見順  
『高見順日記』より

#### 4. 文化財等の分布状況

坂井市には、国・県・市の指定・登録文化財が125件所在（令和3年（2021）3月31日現在）している。

文化財保護法に基づく「国指定等文化財」が15件、「国登録文化財」が13件所在している。また福井県文化財保護条例（以下、「県条例」という。）に基づく「県指定文化財」が32件、市条例に基づく「坂井市指定文化財」が59件、また、県内では珍しい市独自の登録文化財選定により「坂井市登録文化財」が6件となっている。

国・県・市指定の文化財指定等件数

区分（分類）		国指定等	県指定	市指定	国登録	市登録	合計	
有形文化財	建造物	4	5	10	12	2	33	
	美術工芸品	絵画	3	3	0	0	0	6
		彫刻	0	6	12	0	0	18
		工芸品	2	3	3	0	0	8
		書跡・典籍・古文書	0	2	3	0	0	5
		考古資料	0	1	1	0	0	2
		歴史資料	1	2	3	0	1	7
無形文化財		0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	0	0	1	
	無形の民俗文化財	0	6	6	0	0	12	
記念物	遺跡	2	3	12	0	3	20	
	名勝地	1	0	0	1	0	2	
	動物・植物・地質鉱物	2(※1)	3	6	0	0	11	
文化的景観		0	0	0	—	—	0	
伝統的建造物群		0	0	0	—	—	0	
合 計		15	33	58	13	6	125	

※1 国天然記念物及び名勝に指定されている東尋坊は指定順位1位の地質鉱物を含む。

※2 地域を定めない動物(コウノトリ、ニホンカモシカ、マガン、ヒシクイ)は件数に含めない。

(1) 国指定文化財

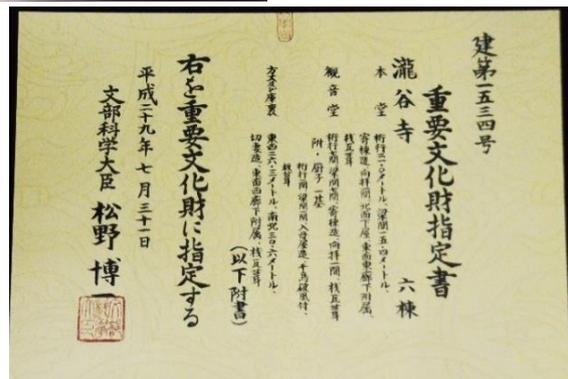
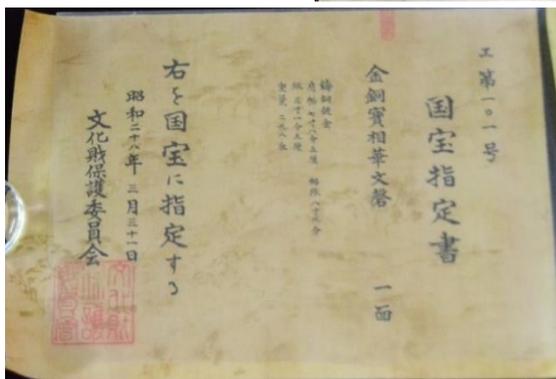
本市では国指定の文化財は15件あり、重要文化財のうち建造物が4件、美術工芸品が6件とされている。記念物としては史跡が2件、名勝が1件、天然記念物が2件となっている。

建造物には室町時代や江戸・明治時代の建物が指定され、天守、港湾施設、寺院など多岐にわたる。これらの建物が造られた背景には、九頭竜川を中心にした舟運や日本海海運の発展がもたらした本地域の繁栄ぶりがあった。また町衆や村民らが領主や寺社などを支えるだけの経済的な余裕があったことも示している。現存する県内最古の民家の坪川家住宅は、山と川に囲まれた山村集落として発展した竹田地区に所在し、後背地の山村とともに独特な自然景観をみせている。

建造物では、瀧谷寺本堂・観音堂などや三国港（旧阪井港）突堤、丸岡城天守、坪川家住宅の4件が指定されている。

美術工芸品では、本市唯一の国宝・金銅宝相華文磬こんどうほうそうげもんけい きんこうひんの金工品や、絹本著色他阿上人真教像けんぽんちやくしよくた あしょうにんしんきょうぞう上人真教像、絹本著色地藏菩薩像などの仏画のほか、全国的にも珍しい室町時代中期の天文図の天之図（星図）などの6件が指定されている。

史跡・名勝・天然記念物では、東尋坊は自然地形として著名で、三国港突堤にも東尋坊の岩が一部使われており、天然記念物と名勝の二重の指定を受けている。そのほか、江戸時代に築庭された滝谷寺庭園や丸岡藩が造った砲台跡、六呂瀬山古墳群、アラレガコ生息地の5件が指定されている。



(2) 県指定文化財

本市では、県指定文化財は 32 件あり、有形文化財のうち建造物が 5 件、美術工芸品が 15 件、無形民俗文化財が 6 件、記念物 6 件となっている。

建造物では、江戸時代の大湊神社本殿・拝殿などがある。

美術工芸品では、室町時代から南北朝時代の絵画の絹本著色白山参詣曼荼羅図などがある。また、平安時代後期から室町時代の彫刻の木造神像伊邪那岐命など、鎌倉時代の卷子本浄土三部経、南北朝時代から明治時代の書跡・典籍・古文書などがあり、主に寺社や地区で所蔵されている。

無形民俗文化財では、三國神社例大祭三国祭や日向神楽といった祭礼に関するもの、舟寄踊やなんぼや踊り唄といった盆踊りに関するもの、表児の米の稲作文化に関するもの、雄島海女の素潜り漁と加工技術の生業に関するものがある。

記念物では、史跡および天然記念物が指定されている。史跡では横山古墳群の南端に立地する 6 世紀の前方後円墳・椀貸山古墳がある。江戸時代に福井藩から厚い保護を受けたとされる称念寺には新田義貞公墓所があり、史跡に指定されている。また、藤鷲塚のフジや紀倍神社のオニヒバなど、地元の大樹も指定されている。

備考	現況	説明 または 略歴	員数	所在地	名称	種別 又 区分	指定 理由
			二四坪 一基	坂田郡丸岡町長崎丁一五	新田義貞公墓所	昭和四十四年九月一日 告示第 一 号 福井県教育委員会 指定	新田義貞公墓所 新田義貞 長崎丁一五

新田義貞公墓所指定書



新田義貞公墓所  
(越澤会長撮影)

### (3) 市指定文化財

市指定文化財は 58 件あり、有形文化財のうち、建造物が 10 件、美術工芸品が 24 件、有形民俗文化財が 1 件、無形民俗文化財が 6 件、記念物が 18 件となっている。

建造物は鎌倉時代の針原八幡神社石造多層塔、信社王神社石造多層塔などがある。

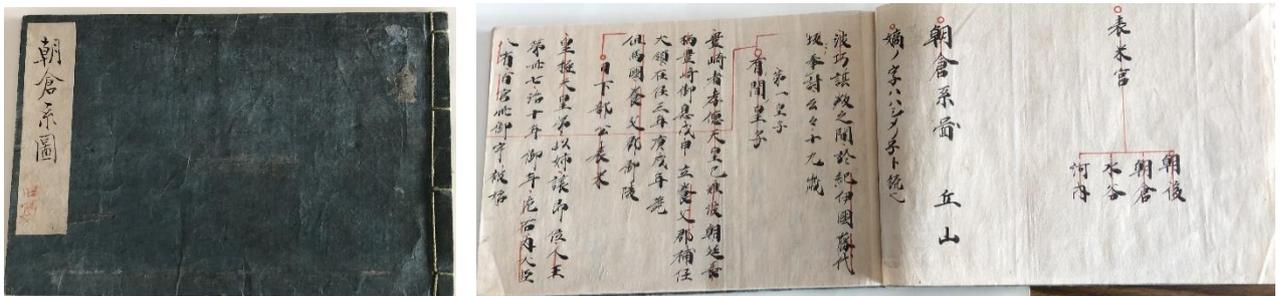
美術工芸品が 23 件と多く、そのうち 13 件は仏像・神像などの彫刻である。三國神社拝殿向拝の群猿像、三國神社木造神馬像、木造新井白石胸像は三国の彫刻師が手掛けたものである。工芸品には祭礼行事に奉納される三国祭の山車屋台 3 基が指定されている。また、三国湊の豪商であった森田家文書には、安土桃山時代から江戸時代初期の貴重な古文書がまとまって残されている。これらのような三国湊の繁栄を伝えるものが多く指定されている。

さらに、美術工芸品には本市の真宗信仰の一端を示す寄安道場関連資料や伝承に由来する黄楊の旧跡も指定されている。考古資料としては牛ヶ島石棺がある。本来、古墳の埋葬施設に葬られている石棺が後世の再利用による大きな加工が行われずに保存され、指定文化財となっていることは珍しい。

有形民俗文化財は、春江町西長田にある汗かき地蔵が唯一指定されている。この地蔵は災厄を予見し、汗をかいて異変を知らせるとされ、昭和 23 年（1948）の福井地震の際にも汗をかいたといわれている。

無形民俗文化財では、いざき、海女唄、三国節といった唄に関するもの、火の太鼓、越前打ち込み太鼓といった地域に根付いた民俗芸能が指定されている。

記念物では、古墳、寺跡、藩主などの墓所のほか、地域や個人宅に伝わる樹木が指定されている。



称念寺所蔵資料 朝倉系図（越澤明会長撮影）：

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館によると、称念寺所蔵の朝倉系図は、現存する朝倉系図の中では最古であり、内容も質が高いとのことである。

### (4) 国登録文化財

国登録文化財は13件あり、有形文化財が12件と記念物が1件となっている。

有形文化財には、旧岸名家住宅、坂井家住宅、魚志楼<sup>うおしろう</sup>（松崎家住宅）、旧森田銀行本店、旧大木道具店店舗兼主屋や、眼鏡橋などの12件があり、ほとんどが三国町旧市街地に集中している。この地域は、かつて三国湊で繁栄した町並みがあり、湊町とその周辺には「かぐら建て」と呼ばれる町家が多く連なっている。登録文化財の建物は、町家、洋風建物、鉄道関連建物の3種類に大きく分けられる。

記念物では、坪川氏庭園が登録を受けており、江戸時代の豪農を起源とする農家の庭園である。庭園は国の重要文化財の坪川家住宅に隣接する池庭を中心として、山からの導水、菖蒲園、巨樹を含む屋敷林などにより、独特な自然環境を形成している。



魚志楼（松崎家住宅）



眼鏡橋

### (5) 市登録文化財

市登録文化財は6件あり、有形文化財が3件と記念物が3件となっている。人物の伝承に関するものも対象になっている。

有形文化財としては、上金屋八幡神社<sup>かみかなや</sup>と中庄神明神社<sup>なかのしょう</sup>に鎌倉時代の石造多層塔、石塚神社岩座<sup>いしづかじんじやいわくら</sup>がある。中庄神明神社の石造多層塔は本来の位置から移動しているが、石造物としての歴史的価値は高い。

記念物では、人物の伝承に関するものとして、古墳時代の継体天皇にまつわるてんのう堂、鎌倉時代の禅僧・瑩山紹瑾<sup>けいざんじょうきん</sup>にまつわる瑩山禅師誕生地、源平合戦で活躍した斎藤実盛にまつわる実盛池が登録されている。

### (6) 主な未指定文化財

坂井市文化財保存活用地域計画において、未指定文化財は、現在 1,557 件が確認されている。

未指定には正月行事の左義長・どんど焼き、三国町の歳徳神祭礼としとくしんなどの無形民俗文化財が多い。また、市の神社には多くの絵馬が残され、皮膚病に対する民間信仰を伝える「なまず」図の絵馬なども含まれる。さらに、報恩講などの宗教行事も含まれている。

市内には、文化財的な価値を有する建造物、庭園、文書、肖像画、仏像などが多く所在している。下記に、越澤会長、益田委員による考察を掲載する。

三国町東部の寺院（益田報告・現地調査3寺院・2023年6月29日午後2時半-4時半）

唯称寺伽藍：真宗大谷派、桃山時代にここで創建、天明4年(1784)三国大火に類焼し再建したのが現存の伽藍で、本堂、書院、鐘楼、表門、表倉、塀及び基壇などが残る。本堂は、正面七間の規模の大きい真宗堂で、外陣内陣の内部は来迎柱以外すべて本山本堂同様の「立登せ柱」とするが、ここまでは京都の本山東本願寺の天明8年火災焼失再建工事が始まる前のものか。内外陣境の金欄彫刻欄間や梁裝飾は豪華で、向拝組物や梁の裝飾は華麗だが、その後かとみられる。門前石碑文「加賀山田の光教寺の光闍坊顕誓は、大小一揆により越前に逃れ布施田に草案を結び、孫の願明が教如上人の東本願寺創立に従い、寺号を唯称寺に改めてこの地に再興す。湊御坊と呼ばれた時期もあった。」(先住和尚筆か)

本堂外観・向拝組物虹梁



本堂外陣内陣・正面に金箔貼欄間彫刻  
内陣(左)と外陣(上)の立登せ柱と梁組

唯称寺伽藍 2



書院玄関(要内部調査)・鐘楼(要調査)江戸末期頃



表倉(表門) (裏側・表側)



唯称寺石碑



塀及び石造基壇



性海寺伽藍 本堂、不動堂、境内堂、天満宮本殿鳥居、表門、石反橋、石塔2基、森田家墓地

本堂正面・石造雨落に葵紋 下:解説文



**性海寺** しょうかいじ

三国湊で最も古い寺院の一つ。かつてはヤブツバキが茂り、椿寺と呼ばれた。新義真言宗智山派、本尊は薬師如来。開山宗信上人が延文元年(1356)福浦に創建。二世空信上人のとき、この地に移る。越前国主朝倉氏、福井藩主代々の祈禱所として崇められる。国重要文化財の地藏菩薩像をはじめ、三国湊を代表する豪商森田家墓所や越前漂流者供養塔などの湊の歴史を語るものが多く伝わる。

**Shingai-ji Temple**  
This is one of the oldest temples in the old port town of Misaki. It used to be called Tsubaki Temple because of the many wild camellias growing thick in a garden of the temple. This temple belongs to the Chōin group of the Shingon-shū sect of Buddhism and its principal image is Yakushi Nyōrai (Buddha of medicine). It was founded in Fukaura village by the Shōin sect in the 14th c. It was then transferred to this location under management of the Ikeda family, the 2nd. It had been worshipped as a prayer spot by Ikeda domain and Misaki domain. A Shōin sect of Shingon-shū, the 2nd, had been worshipped. In this temple, many items including the image of the great saint, such as "Image of the Buddha (seated deity of medicine)", the "Image of Yakushi Nyōrai" and of the wooden guardian deities in this port town, or "Hōshō-hōshōkyō-in" (a national monument). The temple also played a role in prayer for those who came to Misaki, have been handed down.



性海寺伽藍 森田家墓地 石塔2基(多宝塔・宝篋印塔)



妙海寺伽藍 本堂、鐘楼門、書院庫裏、門構石造段基壇、西墓地(三国湊城跡、千手観音石像)、歌川碑



**三国湊城跡** みくにみなとじょうし

中世に勢力を誇った三国湊白山千手寺は、南北朝の動乱の際に城郭として利用され、湊城あるいは千手寺城と呼ばれた。『太平記』には「中にも湊城とて、北陸道七箇国の勢共が終に攻落せざりし城は、義助の若党畑六郎左衛門時能が、僅二十三人にて籠ったり平城也」とある。江戸期には商人たちの港会所が、明治期は郡役所が置かれた。古来より三国湊の中心地であった。現在は妙海寺西墓地。

**Ruins of Mikuni-Minato Castle**  
 This town became a center of the old port town of Mikuni, which had to have a great power in the mid-14th century, was used as a castle wall during the North-South disturbance and called "Minato Castle" or "Temple of the Thousand Hands". The name of this castle is mentioned in old records such as "Tokuwa". A meeting place for merchants was the port town built in the early 16th century, and a county hall was here in the end of that 16th century. This had been in center of the old port town of Mikuni for a long time. Now it is a burial ground of Mikuni-ji temple.  
 Photo: Ruins of Mikuni-Minato Castle when it was used as a county hall.

みくに歴史文化すまづくり推進協議会・三国湊がくくりプロジェクト・城跡三箇島市民会(平成17年刊)

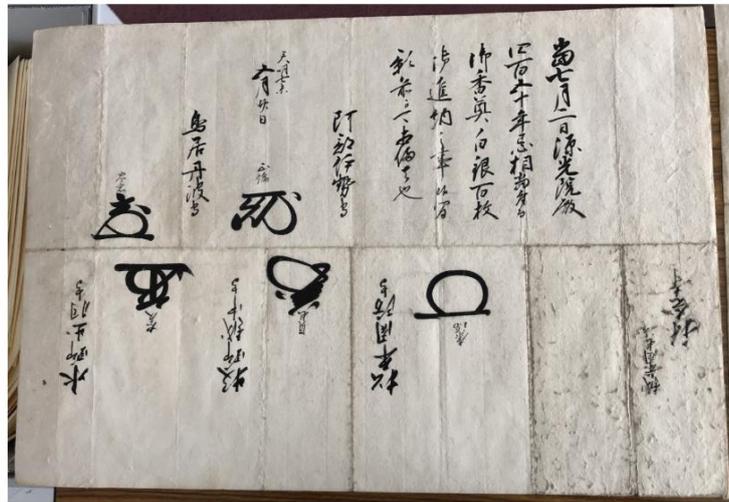


西墓地(三国湊城跡、千手観音)、歌川碑

越澤明会長により撮影された資料

### 称念寺所蔵資料

江戸幕府の指導で、50年ごとに3度、新田義貞公の法要が実施された。



新田義貞公 450 年忌を実施するように指示 老中五名の連署

徳川家康の肖像画と笏の持ち方が異なり独特である。徳川家康像については江戸幕府の許可がなければできなかつたと考えられる。



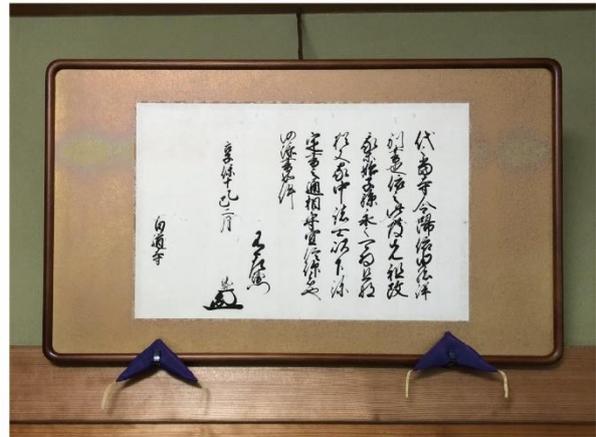
修復が至急必要である

越澤明会長により撮影された資料

### 白道寺所蔵資料



文化財として未調査、未指定の重要な資料が所蔵されている。



庭園は、非公開で、文化財として未調査である。本多家時代の作庭であり、文化財としての価値が高い。



### (7) 特産品、工芸品、菓子・料理等

三国祭の山車人形や提灯<sup>ちようちん</sup>の制作などの工芸技術は、無形民俗文化財と密接に関わりながら現在まで継承されている。また、三国町安島などには、緻密な刺し目で幾何学的模様が施された刺子の着物「モッコ」がある。

また、本市は水の恵みやゆたかな平野、海など多様な自然環境に恵まれることから、四季折々の農産物や海産物などが豊富である。農産物にはメロン、スイカ、ナシなどの野菜・果物類、米（コシヒカリ）、蕎麦、六条大麦などの穀物がある。海産物には、皇室献上品として90年以上続く「越前がに」をはじめ、もみわかめや甘えび、塩うになどがある。また、福井県のブランド牛「若狭牛」の最大産地である。

お盆に仏様へのお供えとして作られていたとびつき団子（地元ではとびつけ団子とも呼ぶ）や、婚礼や祭りの際に作られていたぼっかけやデンガクなどの伝統食もみられる。

越前平野は、古代より農業地帯として栄えてきた。米、蕎麦、大麦、ゴボウなどの産地として知られている。

米の著名な品種であるコシヒカリは、福井県農業試験場の石墨慶一郎が品種改良して誕生した。2021年5月、坂井市は坂井市丸岡町舟寄に石原慶一郎の銅像を建立した。



石墨慶一郎氏銅像：銅像は丸岡町舟寄に完成。市長ら16人が幕を引くと、大きな拍手とともに姿を現した石墨博士像

福井県の各地域で蕎麦が名産品となっている。坂井市では集団転作対応として”麦あと蕎麦”を推進した。その結果、丸岡町産のそばは風通しの良い平野部で育てられ、小粒で歯ごたえがあり香り高く、早刈りのため皮をむいた実が一般的な蕎麦の実に比べて黒味が濃い鶯色をしており、高品質な玄そばと評価される。別名を「丸岡おぐろ小黑」という。

また、豊かな坂井平野の稲作と水の恵みから酒造りが行われている。市内唯一の酒蔵では江戸時代から行われている。

坂井市の食文化

食材名	概要	地区
花らっきょ	全国で唯一、植え付けから収穫まで足かけ3年をかけて栽培される。小粒で繊維が細かく、シャキシャキとした食感が特徴。	三国
そば	丸岡町は県内でも1、2位を誇るそば産地である。丸岡産そば粉で作った「おろしそば」は香り高く風味が強い。そばに大根おろしの汁と出汁をあわせたものをかけて食べる。	丸岡 坂井
米（コシヒカリ）	コシヒカリは昭和31（1956）年に福井県内の農業試験場で生まれた。炊きあがりの粘りとほのかな甘みが味わえ、冷めてもおいしいお米。	市内全域
越前 <small>しらくき</small> 白茎ごぼう	根も葉も食べられるゴボウ。根は短く茎は白くて長い。主に茎を食べ、しゃりしゃりとした食感で茎もゴボウの味がする。	春江
六条大麦	全国一の作付面積を誇る。主に麦ごはんや麦茶に利用されている。	市内全域
若狭牛	きめがこまやかで柔らかく、霜降りの度合いのサシが密であり、風味に富んだ高級牛である。	市内全域
越前がに	冬の味覚の王者として知られる。越前がにに関する記録は1511年の公家日記にも記されている。坂井市で水揚げされたカニがこれまで90年以上、皇室に献上されている。11月6日に解禁され、漁獲期間はメスのセイコガニは12月31日、オスのズワイガニは3月20日までとされている。	三国

甘えび	越前がにと並んで人気の高い珍味。独特のとろっとした食感と甘みが絶品で、生で味わうのが一番人気。4月～10月頃に、船尾から海底付近へ網を下ろし、船で網を曳く沖合底引き網漁で漁獲される。	三国
ガサエビ	甘えびより一回り大きい。獲れる量が少なく、鮮度が落ちやすいため、市場にはあまり出回らず、主に地元で消費される希少なえび。	三国
もみわかめ	4月末ごろから採れる新ワカメを天日干しにし、乾いたものを手で揉んで仕上げる。瓶詰めにして販売される。	三国
塩うに	バフンウニの塩漬けのこと。日本3大珍味のひとつとされる。江戸時代後期の書物『日本山海名産図会』でも記載されている。ウニ漁は7月中旬に解禁され、約2週間で終了。海女が素潜りで採ったウニを手作業で割り、中身を塩漬けにする。	三国
酒まんじゅう	三国地区を代表するお菓子のひとつ。江戸時代に往来した北前船の船乗りたちから製法を学び、今に伝えられているという伝統の深い和菓子。もち米と米麴が種原料の甘酒を熟成させ、小麦粉を混ぜた種が特徴。ほどよく膨らんだら蒸し、最後にそれぞれの店の焼き印を押す。祭りや婚礼の祝い菓子としても重宝される。	三国
日本酒	豊かな坂井平野の稲作と水の恵みから酒造りが行われている。市内唯一の酒蔵では江戸時代から行われている。	丸岡 坂井
豊原のそうめん	江戸時代の『 <small>こくじょういぶん</small> 国乗遺聞』(江戸後期)や『 <small>あけちぐんき</small> 明智軍記』(元禄15年(1703))などには豊原のそうめんについて、当時の産物や名物であると記載されている。現在はイベントの時などにふるまわれる。	丸岡

坂井市の伝統食

食材名	概要	地区
とびつき団子 (とびつけ団子とも)	団子にささげをつけたもの。もともとはお盆に仏様へのお供えとして作られていた。現在は菓子店などで販売されている。あわら市本荘地区でも作られている。	三国 坂井
ぼっかけ	ゴボウやこんにゃく、油揚げなどを入れたごぼう汁を御飯にかけたもの。坂井町兵庫地区では結婚式に食べていたが、現在、結婚式では食べない。春江町では御飯にはかけず、ごぼう汁のままで食べる。	春江 坂井

葉っぱ寿司	8～9月に作られる。各家庭にアブラギリの木が植えられ、嫁入りの際にも木を持っていく慣習があるという。鱒を甘酢に浸けてアブラギリの葉で包む。8月の夏祭りなどにもお供えする。永平寺町にも同様の寿司が伝わっている。	丸岡 春江
魚の塩炒り	カレイ、ハタハタ、イワシ、メギスなどの小魚を、塩を入れて茹でたあと軽く炒ったもの。	三国
デンガク	清永のデンガクと言われる程、清永の婚礼時にはつきもので、ハタハタを炭火で焼き、砂糖と味噌のたれをつけてふるまった。現在はコミュニティセンター祭りなどのイベント時に作る。	坂井
報恩講料理	浄土真宗信仰が広く浸透しており、講の食事が古くから伝わっている。（麩のからしあえ、油揚げの煮物など）	市内全域
なとみそ (なとみそとも)	塩漬けにしたナスを塩抜きして麩漬けにしたもの。	三国

### (8) 三国湊と北前船

三国湊は、中世・戦国時代には、「三津七湊」という全国の10か所の重要な湊の一つとして知られていた。江戸時代になると、日本海における北前船の海運ルートが開発され、江戸時代の幕藩体制では、日本海沿いに領地を持つ藩の数がかかり多くなった結果、北前船の寄港地が数多く整備された。

平成29年に日本遺産として、「北前船寄港地」が認定された。認定された自治体は下記のとおりである。

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

北前船寄港地・船主集落を中心としたストーリーで、平成29(2017)年度に認定されていたものに平成30(2018)年度に追加認定された。複数の市町村にまたがってストーリーが展開されている。

#### 【認定自治体 (◎印は代表自治体)】

山形県 (◎酒田市、鶴岡市)、北海道 (函館市、松前町、小樽市、石狩市)、青森県 (鮎ヶ沢町、深浦町、野辺地町)、秋田県 (秋田市、にかほ市、男鹿市、能代市、

由利本荘市)、新潟県(新潟市、長岡市、佐渡市、上越市、出雲崎町)、富山県(富山市、高岡市)、石川県(加賀市、輪島市、小松市、金沢市、白山市、志賀町)、福井県(敦賀市、南越前町、坂井市、小浜市)、京都府(宮津市)、大阪府(大阪市、泉佐野市)、兵庫県(神戸市、高砂市、新温泉町、赤穂市、洲本市、姫路市、たつの市)、鳥取県(鳥取市)、島根県(浜田市)、岡山県(倉敷市、備前市)、広島県(尾道市、呉市、竹原市)、香川県(多度津町)

### 【ストーリーの概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられる。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っている。また、寺社には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われている。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやまない。

(9) 坂井市百景

坂井市では、坂井市都市計画課が担当課となり、市の魅力をアピールするとともに景観に対する市民の高揚を図るため、「坂井市百景」の募集を行い、坂井市景観委員会の審議を経て、百景を選定した。その内容は下記のとおりである。分類は眺望・風景、水辺、緑・公園、歴史・暮らし・文化、建造物・施設・ランドマーク、祭り・行事の6分類である。

分類	番号	名称	摘要	地区
眺望 風景	1	東尋坊	特選資源	三国
	2	嵩の田園と梶の里山	身近な景観資源	三国
	3	雄島	特選資源	三国
	4	加戸小学校から望む坂井平野	身近な景観資源	三国
	5	六呂瀬山古墳群と古墳群下からの眺望	身近な景観資源	丸岡
	6	丈競山	身近な景観資源	丸岡
	7	そば畑	身近な景観資源	丸岡
	8	田園風景	特選資源	坂井
	9	九頭竜川堤防からの眺望	身近な景観資源	坂井
	10	えちぜん鉄道と田園風景	身近な景観資源	坂井
水辺	11	荒磯遊歩道	特選資源	三国
	12	大堤（通称：鴨池）	身近な景観資源	三国
	13	竹田川溪谷	身近な景観資源	丸岡
	14	小和清水	身近な景観資源	丸岡
緑 公園	15	嵩のひまわり畑	身近な景観資源	三国
	16	はなしょうぶ園と千古の家	特選資源	丸岡
	17	たけくらべ広場	身近な景観資源	丸岡
	18	女形谷のサクラ	身近な景観資源	丸岡
	19	福井県総合グリーンセンター	身近な景観資源	丸岡
	20	竹田水車メロディーパーク	身近な景観資源	丸岡
	21	吉澤家庭園	身近な景観資源	春江
	22	江留上防災公園	身近な景観資源	春江
	23	旧島崎邸	身近な景観資源	春江
	24	藤鷲塚のフジ	身近な景観資源	春江
	25	ゆりの里公園	身近な景観資源	春江

	26	エンゼルランド	身近な景観資源	春江
	27	木部ふれあい公園	身近な景観資源	坂井
	28	新庄地区ふるさと花壇	身近な景観資源	坂井
歴史 暮らし 文化	29	三国港（（旧坂井港）突堤を含む）	身近な景観資源	三国
	30	町屋の見える街なみ	身近な景観資源	三国
	31	中野重治生家跡	身近な景観資源	丸岡
	32	称念寺	身近な景観資源	丸岡
	33	鳴鹿御野立所	身近な景観資源	丸岡
	34	丸岡城	特選資源	丸岡
	35	てんのう堂	身近な景観資源	丸岡
	36	紀倍神社	身近な景観資源	坂井
	37	京福線高架跡	身近な景観資源	坂井
	38	お早良作慰霊地蔵	身近な景観資源	坂井
	39	春日神社	身近な景観資源	坂井
建造物 施設 ランドマーク	40	みくに龍翔館（現坂井市龍翔博物館）	特選資源	三国
	41	丸岡スポーツランドと健康施設	身近な景観資源	丸岡
	42	鳴鹿大堰	身近な景観資源	丸岡
	43	坂井市立春江東小学校	身近な景観資源	春江
	44	春江町複合高架水槽（通称：給水塔）	身近な景観資源	春江
	45	J R 北陸本線の線路	身近な景観資源	坂井
	46	J R 丸岡駅	身近な景観資源	坂井
	47	えちぜん鉄道下兵庫駅	身近な景観資源	坂井
祭り 行事	48	三国花火	特選資源	三国
	49	雄島祭り	身近な景観資源	三国
	50	蓮如上人御影道中	身近な景観資源	丸岡